

令和3年（2021年）の渡島大島の火山活動

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報の状況、2021年の発表履歴

2021年中変更なし	噴火予報（活火山であることに留意）
------------	-------------------

○2021年の活動概況

・火口や噴気の状況（図1～2）

1月25日と9月2日に上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）を実施しました。山頂部の寛保岳（中央火口丘）及びその周辺に噴気は認められず、地形や植生にも特段の変化はありませんでした。また、赤外熱映像装置による観測では、寛保岳の火口南東側内壁にこれまでと同様の弱い地熱域を確認しました。



図1 渡島大島 島全体（左上）及び寛保岳（右上・右下）の状況

左上：南側上空（①）から撮影 右上：北東側上空（②）から撮影
右下：南西側上空（③）から撮影

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』を使用しています。

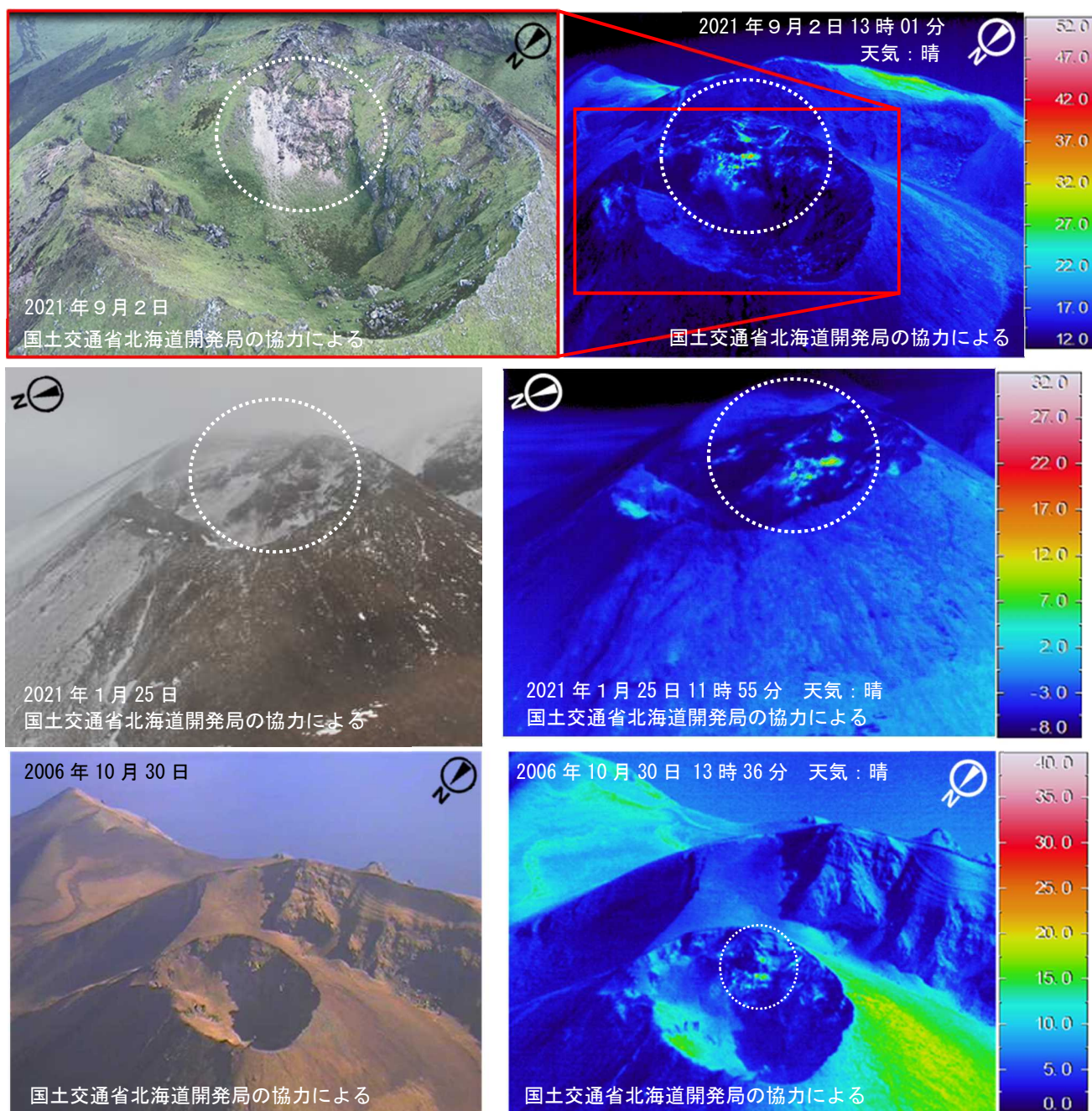


図2 渡島大島 赤外熱映像装置による寛保岳山頂火口の地表面温度分布

上段：北西側上空 (①) から撮影
 中段：北西側上空 (②) から撮影
 下段：北西側上空 (③) から撮影

- 寛保岳の南東側内壁に見られる地熱域（白い点線で囲まれた領域）の地表面温度分布は、2019年の観測では日射の影響で不明瞭でしたが、2021年1月と9月の観測では前回地熱域の確認された2006年の観測と比べて特段の変化はありませんでした。

